

令和5年度病害虫発生予察特殊報第3号

令和5年9月15日
千葉県農林総合研究センター長

パセリ葉先枯病（仮称）の発生について

1 病害名：パセリ葉先枯病（仮称）

2 病原菌：*Stemphylium lycopersici* 及び *Stemphylium vesicarium*

3 作物名：パセリ

4 発生経過

- （1）令和3年8月に、県内のパセリ生産ほ場で、葉先から徐々に褐変が拡大する葉枯れ症状（写真1・2）が発生した。生産者の要請を受けた管轄農業事務所が本症状を確認し、農林総合研究センターに診断を依頼した。
- （2）同センター病理昆虫研究室及び生物工学研究室で、令和3～4年に採集した同様の症状である3検体を診断したところ、病原菌の形態的特徴及びrDNA-ITS領域及びGPD遺伝子の遺伝子解析の結果から、*S. lycopersici*（写真3）または*S. vesicarium*（写真4）による国内未報告の病害であることが判明した。
- （3）本病は、令和5年度日本植物病理学会関東部会で同センターより報告し、パセリ葉先枯病を提唱した。

5 病徴と病原菌

- （1）葉先から褐変して広がる（写真5・6）。なお、病徴からどちらの菌が原因であるかを区別することは困難である。
- （2）病斑上にできた分生子により伝染する。
- （3）同じ菌が原因となる病害として、*S. lycopersici* はトマト斑点病・ピーマン白斑病・スターチス葉枯病等が、*S. vesicarium* はスミレ類葉枯病等が報告されている。

6 防除対策

- （1）り病株は速やかにほ場外へ持ち出し、埋却処分する。
- （2）両菌とも生育適温は25℃である。分生子が雨風やかん水の飛沫により飛散し、多湿条件下で発生しやすい。
- （3）現在、本病に登録のある農薬はない。

7 人への影響

人畜には無害で、本菌が付着した食物を摂取したことで健康を害したという報告はない。



写真1 現地での発生状況



写真2 葉先枯れ症状



写真3 *S. lycopersici* の分生子



写真4 *S. vesicarium* の分生子



写真5 *S. lycopersici* の病徴



写真6 *S. vesicarium* の病徴

※写真は千葉県農林総合研究センター原図

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

